

□議員名：中村博行

1 厚陽地区の活性化について

論点	厚陽地区では、現在の ADSL 回線を光回線に転換する強い要望があるが、インターネットの整備環境についての考えを問う。
回答	光回線の整備には多額の費用がかかることから、サービスが提供されていない地域がある。光回線の必要性は十分認識しているが、民間主導による整備と考えており、今後は、次世代の通信システム 5G について、その動向を見ながら、国や県と連動して進めたい。

論点	厚陽小中学校は、児童・生徒の減少から、将来、複式学級移行への懸念が増している。校区の再編、見直しについての考えを問う。
回答	厚陽小学校・中学校は、今後の推移、推計では、今後 5 年間継続して複式学級が発生する予測はない。しかしながら、児童・生徒の減少に伴い、多様な教育課題も出ており、小中一貫校になって 10 年経過した時点で、成果と課題を検証したい。校区再編は考えていない。

論点	厚陽小中学校の北部、農業振興地域では耕作放棄地が広がっている。農用地を除外し、民間活用による住宅政策など、考えを問う。
回答	農業振興地域整備計画の見直しをしているところであり、その判断基準は今後も確保すべき優良な農地であるかということである。この基準に基づき、法律や国の指針を踏まえ、関係機関及び県と協議を行っている。農振地域がなくなれば、民間の開発が可能にはなる。

論点	下津から梶までの県道の状態を、市は道路パトロールによりどのように認識しているか。県への報告等はしているか。
回答	市においては、県道のパトロールなどの義務は課されていないが、本市職員が県道を通行した際に危険であることを認識した時は、速やかに県へ情報提供している。また、市と県では案件ごとに連絡や協議をしている。下津から梶までの道路についても報告済みである。

論点	厚陽団地など空き家の増加が顕著になっているが、空き家対策事業の進捗状況はどうか。
回答	空き家法、本市の空き家条例に基づき、空き家等対策協議会の設置から市内全域の空き家の実態調査をした。その結果を踏まえ、平成 30 年 10 月に山陽小野田市空き家等対策計画を策定し、事業を推進している。今年度からは老朽危険空き家等除去促進事業を開始した。

2 児童・生徒のスマートフォンや携帯電話の使用について

論点	児童・生徒のスマホ、携帯電話の所持状況や SNS などの使用状況の実態調査はどうなっているか。
回答	市教委が独自に実施している生活改善調査によると、今年度 7 月現在での利用状況は、小学生 49.1%、6 年生限定では 63.7%であり、中学生 77.8%、3 年生限定では 81.3%である。昨年度と比べれば、やや増加傾向にあるものの、昨年度とほぼ同様の利用状況である。

論点	使用についての危険性などの啓発や指導、対策はどのようにしているか。
回答	市内全小中学校において、スマホ、携帯電話の利用方法や SNS 等の使用上のマナーや危険性については、日常的な生徒指導の中でも道徳の授業の中でも指導している。さらには、生徒会や児童会活動を通して、児童生徒自らが使用方法、ルールづくりをしている。

3 高齢化対策について

論点	各地で百歳体操が行われているが、その実態についての調査や支援等はどうか。
回答	平成 26 年から展開している事業で、11 月現在、77 ヲ所で「いきいき百歳体操」が実施されており、約 1,380 名が参加している。また、百歳体操を行う場所を住民運営通いの場といい、地域の方が主体で運営されている。保健師や作業療法士などが活動を支援している。

論点	高齢化の急速な進行から健康寿命の延伸策が重要となる。その一案として、「100歳大学」の設置についての考えを問う。
回答	本市ではスマイルエイジングの取り組みを推進しており、健康寿命の延伸は重要な課題と考えている。滋賀県栗東市からスタートした「100歳大学」は健康づくり、生きがいづくり、幸せづくりなどのカリキュラムがあり、先進的な好事例と考えている。参考にしたい。